

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	城陽市立ふたば園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	102	(回答者数) 72
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	グループと個別指導をセットで実施していることにより、子ども一人一人に合わせた発達支援と集団場面での社会性、行動面に対する支援を行うことができる。	子どもの特性に焦点を当てた設定をするために、子どもの年齢や課題をそろえてグループ編成をしている。	グループの数を増やし、より子どもに適した場を提供できるようにする。
2	スタッフは公認心理師、言語聴覚士、作業療法士の専門職で構成されているため、専門的な評価、支援をすることができる。	一人の子どもに公認心理師/言語聴覚士と作業療法士の担当がつくことで多面的に子どもの支援を考えることができる。	ケース会議をこまめに行い、子どもの変化に即時に対応できるよう心掛ける。
3	母子通園という形態をとっているため、療育の場を保護者にも見学してもらっている。実際の場面を通して子どもの課題や支援の方法を直接伝えているため、家庭で取り入れてもらいやすくなっている。	療育に保護者の参加してもらい、実際に動いてもらいながら子どもへの声かけやタイミングを伝えるようにしている。	最近では、両親ともに仕事を持っていることが多く、平日に療育に通うことは時間的な制約が多い。なるべく保護者が通いやすいよう時間の調整をしてきたい。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園庭がないためドッジボール、鬼ごっこなど広いスペースを必要とする活動を設定しにくい。	敷地面積が狭い。	少人数で危険がないよう気を付けながら行う。
2	きょうだいを連れてくることできない。	保護者も療育に参加するため、きょうだいを連れてきた場合きょうだいを預かる機能がない。	ファミリー・サポート・センター等を紹介する。
3	保護者が療育に通う曜日、時間を選べない。	子どもの課題に合わせてグルーピングをしているため、保護者の希望に添えないことがある。	事前に保護者の都合の悪い日時を確認し、その曜日、時間帯は避けるようにする。